



## 羽津会館 1 周年記念講演会 鳥羽水族館長・中村幸昭先生来たる！

羽津会館竣工1周年を記念して、去る1月28日(火)に、鳥羽水族館長の中村幸昭先生をお迎えして講演会が開催されました。

中村先生は、永年水族館活動の貴重な体験と研究を通して得た知識を“自然から教育を学ぶ。のテーマで、自然の法則に従って生きている生物の生態の具体例や雄雌の役割、その子育てをとともユーモラスに話され、時の経つのも忘れさせてしまうほどでした。

特に先生は「我々を取りまく自然環境も社会的な環境も、このところ急激に悪化してきている。生きとし生けるものには皆生命があり、我々は自分の生命と同様に動物や植物の命の尊さを知り愛の心を持ちたいものである。そして自然界の生き方をより一層謙虚に反省し、かけがえのない自然を次の世代に申し送らなければならない」と言って結びとされました。



▲聴衆を魅了した熱演ぶり

住みよい町は、みんなの力で!!



# 地域社会づくり

## 考えています。

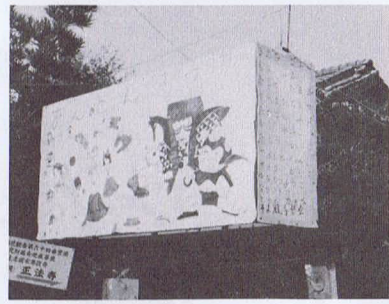
心のふれあう地域社会づくりが叫ばれている昨今、自分たちは、今、何をなすべきか？ また、どのようにしたら明るく住みよい町になるのか？ 大きく将来を展望して、羽津の町づくりについて、みなさんの声をお聞きしました。

### 手作りの文化を

#### 伝承しては…

大字羽津 岡部 巨

千葉の市川から転勤してから早や五年たちました。当初のイメージとは異なり、ゆるやかな丘陵に面した羽津、豊かな自然がそのまま残り、四季折々の咲く野花や、小鳥のさえずりを聴きながら小学生の集団登校のかわいらしい姿をみて、つくづくいい町だと思ふこの頃です。ちよつと不便であるという地域が人間が住むには適した環境だと思ふし、他人の真似でない町づくりの可能性が潜んでいる。そ



▶あんどん祭り

んな町、羽津。

将来の羽津は、手作りの文化で、それを伝承する必要がある。その担い手は子供達である。その子供達の現状の実態をみると決して満足でない。私の娘達よりも私達の幼少期の方がはるかに貧しく物不足の時代であったが充実したものだったと思う。そこには親と同等と思えるほどきびしく、そして優しい先生の目と乱暴であったが決して自分よりも弱い者をいじめたりしない兄貴分の上級生がいた。今の子供達の環境復権のために私達も子供の教育は、先生にだけあるのではなく、原点は家庭にあるという認識に立ち、子供達とふるさとの文化の歴史も知り、地域ぐるみで手作りの文化を再現する機会をもつと多くすべきだと考えます。

わが町羽津から見る夕焼けが今夕も美しい。わが町が今夕も美しい。わが町が今夕も美しい。わが町が今夕も美しい。

今現在の状況を考えると、先祖代々この羽津に住んでいらつしやる方と新興住宅、あるいは社宅にいらつしやる方との物の見方、考え方等、



### 今の現状を

#### 考える

匿名希望

その点では、私は羽津地区に住居していることに喜びを感じている一人です。羽津地区では、社会福祉協議会を中心にサークル活動や諸団体の活動など活発に行われておりますが、時間の許す限り自主的に社会参加をし、社会性が身につくことによつて一人一人が心のふれあえる友達となり、心のうるおい、心の糧となつて生涯の生きがいづくりにもなるのではないのでしょうか。

### みんなで広げよう

#### 友だちの輪！

匿名希望

私たちは動物、植物とのふれあいがなくては生きていくことはできないと思ふます。その中でも人と人とのふれあいが大切だと思ふます。大都會の中では、隣の人の名前も知らない独居老人の死が幾日も知られないでいることもあるようです。他人のことは立ち入らなくてもよいといつても、道であつて挨拶もしないようではモラルに欠けるのではないのでしょうか。

### いじめをはねかえし

#### したたかに生きよう

白須賀町 森 聡明

純真無垢に見える子供達の間で、最近、いじめが深刻化しており、子供達のふざけやいたずらが原因で自殺にまで至る異常さは、一昔前には想像もできませんでした。いじめの原因がいろいろ指摘されていますが、やれ「子供達の欲求不満が増大している」やれ「人間関係が希薄になつてきている」等々です。しかし、子供達がこのような原因をもつて生まれてきたわけではありません。私達大人



が知らず知らずのうちに遠因を作つてきたのではないのでしょうか。異質なものを排除しがちな傾向は、私達大人にも大なり小なりみられますが、このことが他人を思いやる姿勢の欠落につながつていくように思ふます。

ともあれ、事態はかなり深刻です。何か歯止めはないものでしょうか？

最近の子供達はブランド品指向が強いように思ふます。そして非ブランド品を身につけている子供に向かつて、侮蔑的に非ブランド品をはやしめて、いじめることがあるようです。このような場合、いじめられる側に「非ブランド

多少のひらきがあるように思ふます。たとえば、敬老会、神社の祭り、地区の運動会等。また婦人会に新しい地区では入会する方もなく、旧地区では抜けたいけれど抜けれないとの事、今の自由参加にせず、みんなが入る事にすれば家庭の主婦を通してこの羽津が身近に感じ、さらによくしようという方向づいていくと思ふます。

また敬老会については、会場をもつと身近な所で行つてはいかがでしょうか。そうすれば、乗り物に酔う方、体の不自由な方も参加できるのではないでしょうか。そして、保育園、幼稚園、小学生等の催し物を楽しみ、そこに相互の親しみが生まれるものと思ふます。

ところで、以前住んでいた地区で大変よい事だつたと思つたのは、毎月、第一日曜日の朝を「清掃の日」と決め、各家庭の回りを簡単に清掃することです。

日頃、何かと忙しく、お隣り同志、お顔を合わす事が少なくなりましたが、掃除を一齐にしますと、自然と立ち話も弾み、楽しいものでした。

また小学校の放送で清掃の呼びかけをし、音楽を流していました。そしてゴミ捨て、犬の散歩中のフンの処理等…おのずと皆さんにわかつてい



◀地区大運動会

つたようです。そのほか、米洗川堤防をジョギングコースにしてはいかがでしょうか。個々に体のためによりからやってみようと思つても、やはり一人では強い決心がいらいます。曜日・時間等を決めて行えば、年代を問わず、やってみようと思ふ人が集まるのではないのでしょうか。いつか桜並木の堤防になる事を夢みて…

### 私も協力します！！

大宮町 保田 七郎

四日市へ来て十四年目になります。七年前に社宅からここ（大宮町）へ引越して参りました。小学生でした二人の子供は、もう成人に達しております。今では、私共にとつて羽津は第二の故郷となりました。町をよくするために住



### 羽津地区の将来像は…

いかるが町 源 泉

現代の考え方について、昭和生まれの方と、明治、大正生まれの方の考え方はいろいろと意見の相違はありますが、私の空想を述べさせていただきます。

時は流れ、時代は変わる。昔、白須賀海岸には、白砂青松の霞ヶ浦海水浴場、遊楽園があつた。春になると田圃は菜種の花盛りとなり、桑茶畑の新芽がのび立ち、のどかな田園風景がみられた。今は石油コンビナートの基地となり

品を愛用してどこが悪いのか」と逆に聞き直るくらいにしたたかさがあれば、いじめも克服できるのではないのでしょうか。

死にまで至る悲惨ないじめも、元はささいなことが端緒になつていくと聞きます。いじめを小さな芽のうちに摘み取るためにも、私達大人は子供達に、したたかに強く生きることの必要性を示していくべきではないのでしょうか。



兼業農家は僅か百戸足らずとなりました。羽津地区の現状を皆様はどう思われますか。将来、垂坂山の開発について、行政の関係機関のご理解ご協力によつて三重県一の大遊園地になつて、奈良のあやめが池のように観光客で賑わうだろうし、歴史で名高い斑鳩山（額突山）も大自然公園としたい。さらに、その西北隣にある山奥は、五、六年前に鶴土地区画整理組合によつて開発され、約五十万坪もある広大な農地が今は荒地地となつているので、将来この地に工業大学、高校を誘致し鶴マンモス住宅団地の実現されることとが私の念願でもあります。

地区に一方所しかないゲートボール場も、将来、若人の楽しめる球技の一つであることとを考えると、さらに増設してほしい。また、みはと学園跡地に建設された羽津会館は、時々会合、会議が催されていますが、現在では大人のみ利用で十分とはいえません。毎年、夏休みの終り頃になると小・中学生の宿題で、心配する父兄は親戚・知人宅へ植物、昆虫採集の整理を依頼したり、昔の民話、わらべ歌等

を聞きにいたりして。この現状から、将来、羽津会館は郷土資料館を兼ねた図書館として、その機能が果たせるよう地区の皆様のご協力をお願いする次第です。

共稼ぎ留守家庭の幼稚園児小学生の放課後の憩いの場としての遊戯室、遊園地としての発展、開発されんことを期待します。

また、当地区は他の地区と比較すると人生儀礼である結婚式、出産祝、葬式、年忌法要等が派手すぎるのではないのでしょうか。お金がかかりすぎる神社、仏閣、学校等の寄付や、行事が多すぎて、役員さん達の苦勞は大変です。

羽津の世相にも、昔からのしきたりや、ならわしでいろいろ悩んでみえる方は多いかと思われまふ。羽津地区の近代化を進め、将来の発展のためには悪い風習は切り捨て、新しい風習を作つて一日も早く明るい羽津の将来を築いてほしいと羽津地区連合自治会、社会福祉協議会の皆様に熟慮ご協議していただくようお願いいたします。



▲垂坂山より



▲文化祭もふれあいの場



# 楽しかった地区文化祭

## アルバム

去る三月九日(日)十日(月)に羽津地区社会福祉協議会主催の第六回羽津地区文化祭が、羽津会館を主会場に盛大に行われました。

第一日目は、春を思わせる暖かな日で羽津会館の作品展には人々の目を見張る力作がずらり並べられ、二階の茶席コーナーでは、おちついた雰囲気の中、抹茶を楽しんでおられました。

会館前では青少協を中心に集団あそびが披露され、昔ながらの遊びを先輩者から教えられた子どもたちは、生き生きと遊んでいるようでした。

羽津地区市民センターでは美容体操サークルと社交ダンスの発表があり、初めての文化祭参加に会員たちは張り切っておられました。

午後には、羽津幼稚園において市民センターサークルや一般の方の舞台発表があり、一年間の成果が披露されました。また園庭では、小学生の鼓笛演奏やバトン演技があり、最後に幼稚園・保育園児の「みんなで遊ぼう」と題したかわいい遊戯で幕を閉じました。

なおその間、会場では初めての婦人会バザーが行われ、おもしろいお宝があたり一面ただよっていました。

第二日目は、作品展のみ行われ、あいにくの雨模様でしたが、熱心な人は、作品に食

い入るように入らせておられました。

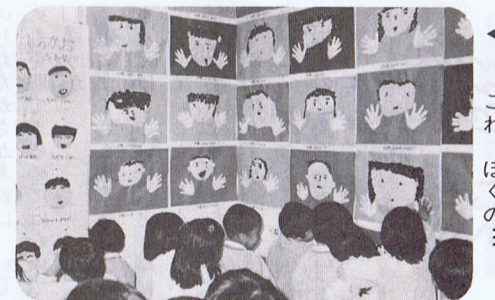
以上、この文化祭の期間中、子どもさんからお年寄りまで延べ一千人の人が会場を訪れました。

早春の一日を過ごしておられた。

最後にあたって、この文化祭が、人と人とのふれあいを通じて羽津地区の文化の向上に一役買うことができれば、案外地域社会づくりになるのかもしれない。今後、ぜひ地区の皆さんの大勢の参加で地区文化祭をもっと盛り上げたものです。



ホー、すばらしい！



これ、わたしの...  
これ、ぼくの...



いい、味ねえ。

### 羽津会館にて

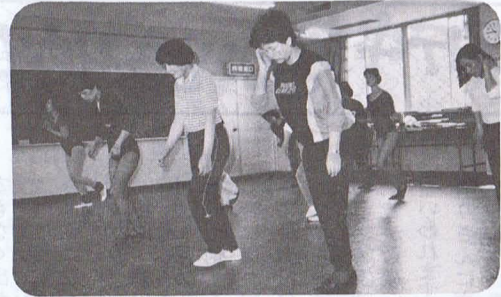


ホー、お手玉はこうするのよ



### 青少協を中心とした 集団あそび

▲うまく、乗れるかなあ？



▲これでいいのかなあ？

### 羽津地区市民センターにて



▶若き日の思い出は...



▶やっと、そろったねえ!!



▲よく似合ってるよ!!



### 羽津幼稚園にて

▲みんなで歌った手話コーラス

### 羽津幼稚園・園庭にて



▼見事な鼓笛隊演奏



▲見てよ、このバトン・トワリング!!



▶チヨット、まっつね。



▲さあ、ジャンケンポン！またね...





別名四丁目・川崎さん(左)と森さん(右)のご一家

# スナキなのおとなりさん♡

私のすてきなお隣りさんは川崎さん。以前から親戚以上に親しくつきあっていました。私は数年前より青少協の本部役員に選ばれ時々家を留守にしがちです。その時、何の不安もなく出かけるのは川崎さんのおかげです。急に雨がふり出して洗濯物の取りこみを世話になったり、おかずの相談までもし、主婦がわりを努めてもらっています。

特に、私の娘はもう就職しておりますが、小さい頃から川崎さんの奥さんを姉のように慕い、何でも相談に乗ってもらっています。時には、主人とのけんかでごまかっているときの仲裁役にもなってくれます。

私たち両家の者は、お互いに名前をよびあうような気楽な仲なのです。

昔から遠い親戚より近くの隣り近所と、よくいわれますが、私たちはこうしたすてきなお隣りさんに恵まれて幸せです。いつまでもこのままの状態でのつきあいを願っています。

別名四丁目 森 照代

## 古典文学を楽しむ

### へさわらび会

#### 出口ゆき子

小倉百人一首を読むことからをはじめ、早や六年目を迎えました私達「さわらび会」では伊勢物語、枕草子と読み進んでまいりました。

在原業平がモデルといわれている「まめ男」が主人公である伊勢物語では、王朝の恋に酔いしれ、かの有名な、かさつばたの一首、から衣きつづなれにしましあれば……

の旧跡、三河の八橋をたずねそぼ降る雨の中に濃き紫の昔衣をしのびました。

また、日本人なら誰もが一度は口ずさむ、春はあけぼの……で始まる枕草子も、一段一段味わいながら、ゆっくりと読み進めてまいりました。作者の清少納言は、この時代には珍しく自己アピールできる女性でした。陰うつな平安期の宮廷生活の中で、まるでねずみ花火のようにシユルシユルとおもしろおかしく、短い時間の中で精いっぱい飛びはねて、煙のごとく定かでない

## 俳句

〈志氏ヶ野句会より〉

### 村田 青麦選

多んどうの芽に来る鴨を雨に追ふ  
羽津町 大森みつゑ

臘梅の万燈父の忌の近し  
羽津町 藤井まき女

街川をのぼる鴨や春の雪  
大宮町 山本 幸

瀬音澄む茶屋に憩ひて紅葉酒  
羽津町 藤井まきへ

鉄線の花の平のこむらさき  
白須賀町 館 二三子

もの芽にかかりし雪のうすきこと  
大宮町 武藤 弘子

巢雀の啜へてとべる糸見ゆる  
城山町 富田 健蔵

朝月の庭に出てきくちろかな  
城山町 川本 ふみ

水仙の花啜く岬に遊びけり  
城山町 片岡とき代

禅寺の萩の庭なる案山子展  
いかるが町 安田 源吉

陽の窓に命つなぎて冬の蜂  
別名町 土肥 綾子

睡蓮の花にひびきて山の雷  
八田町 久志本幹子

## 体力づくり 駅伝大会

羽津地区スポーツ少年団育成会  
会長 寺村 光 則

球技大会の朝、私が起きるとお母さんはもう麦茶をたくさんわかしていました。ご飯を食べながら「今日は勝てるかなあ」と不安に思いました。

六月から練習を重ねてきたのに、練習試合ではいつも負けていたからです。私達の町(大宮西町)は昨年優勝、おとしは準優勝だったから、ぜったいに勝たなくてはと思っていました。いろんなことを思いながら友達と集合場所の広場へ行きました。会場は富士電機のグラウンドです。みんな歩いて行きました。朝の心配もどこへいったのか一回戦、二回戦と、どんどん勝ち進みました。それもコールド勝ちばかりなので、「一回戦でも勝て

## 思い出

羽津小六年  
細谷 明子



「優しいね」という話が、「優勝したら監督さんにアイスクリームをおごってもらおう」という話になっていきました。いよいよ決勝戦の相手は優勝候補の羽津中チームでした。

練習試合の時は負けました、が、ミーティングなどをし、がんばったので、この勢いでいけば、もしかして勝てるかなあと思っていました。

でも、おしくも一点差で負け優勝できませんでした。私達は、あと一歩だったのに、くやしかったです。でも準優勝までいけてうれしかったです。

この他、地区の運動会、電車旅行、家庭キャンプなどにも参加しました。どれもおもしろかったです。たくさん楽しかったです。い出を作ってくださいました。青少協の役員のおじさん、おばさん達に感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。



現在、羽津地区スポーツ少年団育成会は、サッカー、バレー、野球、北野球、剣道、水泳、ジュニアサッカーと、七つの部があります。当スポーツ少年団の目的は、試合に勝つことだけでなく、体を鍛え、監督さんや保護者の指導のもとに礼儀正しい子供に育てることなのです。

今後とも、地区の皆様のあ

## 短歌

〈羽津野短歌会より〉

### 小林 英選

風もなき薄き茜の空高く風揚がりをり父と子の引く  
別名四丁目 青木 照子

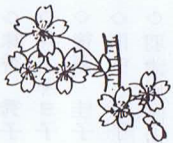
嫁ぎたる日よりいつしか三ヶ月訪れし子に妻の目やさし  
大宮町 小井 正二

大寒の水澄みとほる五十鈴川真鯉一匹静かに泳ぐ  
大宮西町 井村左兵衛

ひさびさに新にて炊ける味御飯若かりし頃を思ひ出しをり  
いかるが町 伊藤 品子

霜を踏み急ぎ来たれるみ堂には佛具磨きの始まりをりぬ  
羽津町 梅本 きん

新年のあしたの空に雪低し国旗を掲げてあらたまりたり  
大宮町 加藤 光子



息子の呉れしあてやかなる友禪のハンカチ持ちて行く初舞会  
羽津山町 坂倉 俊枝

金属の触れ合ふ音の続きる工場の壁の夕くらみ来ぬ  
富士町 杉本 光子

左義長の竹はじく音火の粉舞ひ餅焼く匂ひ闇にたたよふ  
富田浜町 早川 澄枝

大篝火ほのほの高く火の粉飛び田村神社に人満ちて来ぬ  
川原町 平子 季昭

暖房を絶やすことなき姑の部屋に甘藷を保存す花柄の袋  
羽津町 広瀬 敦子

澄み透る珊瑚礁の海に沈みたる零戦機の周囲熱帯魚群る  
羽津町 藤井まきへ (サイパン島にて)

新しきノートに綴る初春の歌三年越し百首目の作品なりけり  
羽津町 前田素女子

初春に暗きニュースの多かりき親の宝なる若き命散らす  
桑名市 村田 千代

年の瀬に二児を残して逝きし人うら若かりき糖をし憎む  
金場町 森 房子

わいわいと楽しく読んでおきます。

軽いカルチャーに飽きた方、少し重めはいかがでしょう。か。ご一緒に源氏物語に挑戦してみませんか? もちろん、体重の軽い方も重い方も大歓迎、王朝の雅やかな世界に遊びましょう。



文学散歩



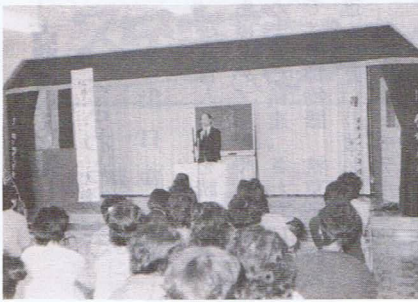
## 「幼児教育子育て講座」に参加して

羽津中一丁目 内田 節子

本年度も私も子ども父母のために「幼児教育子育て講座」が開かれ、期待をもって参加させていただきました。

○増田喜昭先生の「幼児と絵本」では、一日のうちでたとえ僅かな時間でもお母さんは、子どもを膝の上において絵本をよんで聞かせてやることや一つのことに熱中できる集中力のある子供にするためには絵本の果たす役割はたいへん重要である。

○富岡幸作先生の「家庭教育における父母、祖父母の役割」で家庭は両親の深い愛情のもとに存在し、夫婦愛なくして心やさしい子供は育たない。お母さんが祖父母を大事にする家では、子供は自分を取りまく、いかなる人にも「愛」



を注げるような子に成長するものである。トマトはトマトでよい。メロンになってはいけない。その言葉は私の心に深く刻まれています。

○鶴飼新平先生の「心豊かな子どもに育てるために」では、家庭で日本古来からの行事（豆まき、ひな祭り、夏祭り等）をその家庭独自のよきでされないとい心豊かな子どもには育たない。

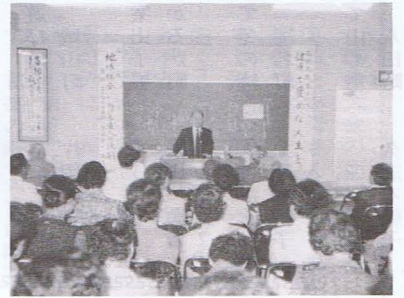
○中瀬啓之助先生の「家庭における母親のあり方」においては、子どもにはいろいろな体験をさせ、考える手助けをするのが母親の役割で、「あぶない」「そんなこととしてはいけない」という心が、どこかにあるのでは…。

○石井房枝先生の「幼児期に必要なこと」では、はじめに障害をもつ一人の子どもの成長過程の映画を見て、我が子が五体満足で生まれてきたことへの感謝と、その分だけ将来、社会のため、人のためになつていく子どもに成長させたいと念願しました。

以上、どの講演も経験豊かな講師の先生方のお話と、それを聞くお母さん方の真剣なまなざしを見るにつけ、この講座を企画された方々に感謝し、今後の子育てに十分生かしていこう……と決心いたしました。

## 「高齢者教室」に参加して

別名四丁目 森 元三



前・後期を通して六回あったこの教室では、正直いって私は、あまりまじめな聴講生でなかったから、いつも気候のよい六月から十月まで、八月の盛夏を除いた週日の午後羽津センターの二階は、快適で楽しみに行ったのに、どこかで居眠りが入っていたようです。

先生方もお医者さん、大学講師、元校長先生など人生経験豊かな方々ばかり、聴講生も劣らぬ年輩のあいだに、いつも始まるのでした。

主なテーマは、「幸せになるための心のあり方」「高齢化社会をいかに生きるか」「地域社会における老人の役割」など、若い者にも聞かせてやりたい話もいっぱいあったがいつも若い者を見たことがな

く、私自身、満足し、納得して帰ってきたものです。

全体を通して感じたことは、我々はいかに家庭で仲よく生活すべきか。これ以上、年をとらない心がけ、いかに感謝の心あれば幸せか、今始まったばかりのかつて無かった高齢化社会に幸せに生きている今を認識すると共に、寝たきりや、この会場に出かけることのできない人をお慰めすることを忘れてはなるまい。なお、このようなお話は、若い者にもこれからの自分の問題として考えてもらうためにもどしどし聞いてもらいたいものだ。



▲高齢者教室修了式

## 「子どもクッキング教室」に行つて

羽津小五年 加藤 祐子

わたしは、クリスマス前に友だち三人とクッキング教室に参加しました。

まず、プリントをくばってもらって作り方をおしえてもらいました。グループは、六人でした。まず四人でクッキー作り、あとの二人は、ゼリー作りでした。

わたしは、クッキーを作りました。クッキーのきじをのばして、かたをとりました。そしてオーブンの皿の上にクッキーをのせて、クッキーの上のほうに、あなをあけて焼きました。十分ぐらいすると焼けました。お皿にクッキーをならべ、冷ぞうこにひやしておいたゼリーも出して、みんなといっしょに食べました。初めてだったけど、いろいろと用意がしてあったので、



▲これ、わたしのよ。

かんたんにできました。

わたしは、たべのこしたクッキーを家に持ってかえり、お母さんとお姉さん、おとうとで、味をみてもらいました。ちよつと焼きすぎたのか「かたい」と言いました。

わたしは、クッキング教室に行つて楽しかったので、またあつたら、参加しようと思えます。



## あとがき

今回は、地域社会づくりをテーマに取り上げ、併せて地区文化祭のようすを紹介しました。なお、何かお気づきの点がありましたら、当市民センターまでお聞かせください。

## 編集メンバー

- ◇武藤 秀雄 ◇天野 平一
- ◇小平 容子 ◇酒井マチ子
- ◇味香 秀子 ◇小川 良二
- ◇井上キヨ子 ◇高倉 芳子
- ◇後藤 佳子 ◇加藤 純子
- ◇田中 寿子 ◇中久喜久子
- ◇羽津地区市民センター

## 羽津の人口

(昭和61年2月末現在)

男	6,721人	+34
女	6,692人	+35
合計	13,413人	+69
世帯数	4,098世帯	+20

前回は